

地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化などが進む地方で、地域外の人を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域への定住・定着を図ること、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

芦屋町地域おこし協力隊 入江 俊充さんのコラム

こんにちは、地域おこし協力隊の入江です。

芦屋町に来てから約半年が経ちました。夏の大きなイベントは中止・延期になりましたが、秋に入り少しずつ小さなイベントが開催されるようになりました。今回は初めて、芦屋釜の鑄込みを取材しましたので、その様子をお伝えします！

■八木鑄金工房の竣工・初吹き式と内覧会

11月12日、八木鑄金工房の竣工・初吹き式と内覧会が開催され、新しい工房のお披露目と初吹き（鑄込み）が行われました。

八木鑄金工房は芦屋釜復興に尽力している八木孝弘さんが新しくオープンするギャラリー兼工房で、芦屋釜の里のすぐ近くに開設されました。

初めて鑄込みの様子を見学しましたが、1400度にもなる鉄を鑄型に流し込む際、鉄の周囲に線香花火のようなパチパチとした光が放たれ、迫力がありとてもきれいでした（実際の鑄込みの動画は協力隊の

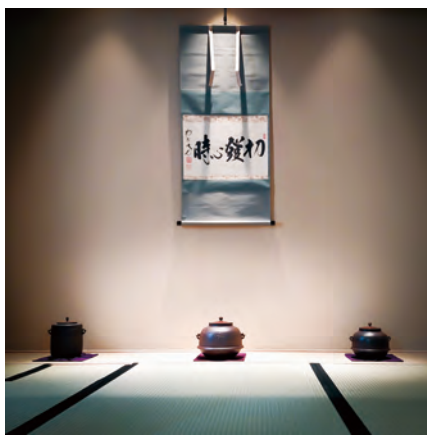
いりえ としみつ
入江 俊充（33歳）

宮城県仙台市生まれ兵庫県神戸市出身
東京と大阪で長く働いていました。
WEBを活用した情報発信が得意。
趣味は釣り最近始めたゴルフ！

SNSに投稿していますので、そちらをご覧ください。

初吹き終了後、八木さんに芦屋釜製作時の苦労や今後の展望などの話を聞くことができました。芦屋鑄物師の八木さんの芦屋釜への熱い思いを聞き、その作品を見ると、作り手の人柄が表れているような気がしてきました。より一層、芦屋釜への興味が深まりました。

ギャラリーは3月ごろにオープン予定とのことです。八木さんは「オープン後は、多くの町民の皆さまに来ていただきたい」と話していました。



写真左上：1400度にもなる高温の溶けた鉄を鑄型に流し込む八木さん

写真左下：余った鉄を再利用するため、土の上に流し広げているところ

写真中央：ギャラリーに展示している八木さん製作の芦屋釜

写真右上：八木さんと工房内で

日々の活動はInstagramで発信していますので、フォローして活動を応援してもらえると嬉しいです！



▷問い合わせ 地方創生推進係
(☎223-3571)

探求心と技術者の魂 矢野倅一展へ向けて⑥ 芦屋の大火と消防車の開発

昭和4（1929）年3月13日、矢野倅一の郷里芦屋町で火災が発生しました。現在の町民会館付近から出火した火災は、海から吹き付ける強い北風にあおられ、次々と飛び火して約70戸が焼失する大火事となりました。消防組（現在の消防団）の消火活動は、困難を極めました。消防用水（井戸水）の不足や折からの強風で藁葺き屋根への飛び火があるなど悪条件が重なっていました。町は豊かな水量を抱いて流れる遠賀川に面しているにも関わらず、ポンプ



△消防団による揚水実施試験

技術が未発達で消火の水源にできず、結果町の広い面積を焦がす大火となり、岡湊神社をはじめ禅寿寺、民家など多くの家屋が消失し、犠牲者も出したことに大きな危機感を抱いていました。

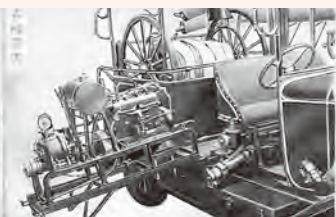
町ではこれを機に新進気鋭の技術者としての名声が高くなっていった矢野への立地に適する能力を備えた消火ポンプを持つ消防車製作を依頼しました。矢野は終生博多に住み、芦屋に戻って定住することはありませんでした。郷土愛を篤く抱いた人柄でした。早速この課題に対応し、半年という極めて短い期間に研究改良を重ね、火災現場が水源から離れていても、また高所であっても必要送水能力を維持するように分離する第二ポンプを備えた消防自動車を作成させました。その名も、「矢野式ユニバーサル複式ポンプ消防自動車」。ユニバーサルとは「普遍・万能」といった意味があり、ど



△消防団による放水実施試験



△矢野式ユニバーサル複式ポンプ消防自動車



△分離できる第2ポンプ

のような状況でも活躍できる消防車であるとの自信の表れでしょう。

芦屋町に買い上げられた消防自動車は、昭和5（1930）年3月15日に消防団による放水式が行われ、同時に芦屋町長から矢野に感謝状が贈られました。文中には、高い能力を持つ消防自動車の開発を行ったことに対するお礼の意が表されています。ここでは町からの感謝状の最後尾の文章を紹介させていただきます。

「：芦屋町は君が其出身地たる本町の為に苦心研鑽利得を度外に置きたる犠牲的行為に對し茲に深甚なる感謝の意を表す。

昭和5年3月15日

遠賀郡芦屋町長 中山貫一

矢野倅一殿」（原文のまま）

（芦屋歴史の里）

編集後記

▼新年おめでとうございます。今年も広報あしやをよろしくお願ひします。良い一年にしたいですね。今号の表紙、とても素敵な振袖姿を撮らせてもらいました。準備として、まずは新成人のモデル探しから始まり、日程、場所の調整、当日の振袖の着付け、という話になります。今回は二人に撮影OKをいただき、まずはホッ。そして次はボランティアとして着付けしてくださる人が見つかりホッ。モデルの二人、着付けしてくれた人、声掛けしてくれた人、ご協力いただいた皆さんに感謝します。（那木）

▼「広報あしやを音声で聞かせませんか」という記事ときどき掲載し、実際にCD-Rなどで提供しています。実は、この音声、私が録音しています。間違わないように集中して読んでいますが、文字の読み間違いや滑舌が悪いなどがどうしてもあります。そこでその音声をチェックしてください。持っているのがボランティア団体の「ハーティネットあいあい」です。修正後は、CDラジカセでも聞けるCDにコピーして利用者に届けてくれています。視力が弱くなっている、広報を読みにくくなったという人やそのような人を知っているという人がいたら広報情報係へ連絡してください。（鍛守）